

新春

2024

昆虫文化の つどい

昆虫生態学者小島先生の最近の研究成果

カブトムシの卵の大きさと成虫時の体サイズの関係
山口大学理学部 小島 渉

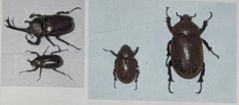
概要

- カブトムシのメスは老い小さい卵を産む
- 小さいメスは小さい卵を産む
- 小さい卵から孵化した幼虫は小さい成虫になる
- 小さいメスの子は小さい成虫になる

小島 渉
理学部 昆虫生態学
1985年 東京都生まれ
2011年 東京大学理学部昆虫学専攻修士課程修了
2013-2015年 日本学術振興会特別研究員(青年) 東京大学
2016-2017年 日本学術振興会特別研究員(中期) 山口大学理学部
2017-2020年 山口大学理学部 助教授
2021年 現在 山口大学理学部 助教授

調べたきっかけ

カブトムシを野外で採ってくと体の大きさにばらつきが大きいことが分かる。このような大きなばらつきはどのようにして生まれるのかを疑問に思った



成虫の大きさに影響する要素として、幼虫の時に食べた餌の質が考えられる。幼虫に餌の良い餌と悪い餌を与えて実験してみると、確かに成虫になった時の体の大きさが全く違うことが分かった。しかし、同じ餌条件で育てた時でも、成虫の体の大きさが異なるのはなぜか見られた。つまり、餌以外にも成虫の体の大きさに影響する要素があるはずだ。私はそのひとつとして、卵の大きさに注目した。



調べかた

- 室内飼育で得られたメス(20個体)の大きさを測り、孵化後5日以内に交尾させ、卵を採集した
- 10日おきに採卵した
- 湿らせたティッシュペーパーの上に卵を置き、孵化した幼虫が餌を食べるのを待たせた。孵化した日に幼虫の重さ(137個体)、孵化幼虫の体長(137個体)を測った

図鑑には載っていない!? カブトムシの不思議な生態

2021年 12月4日(土)
14:00~16:30
(開場 13:30)
定員 大人数10名
参加費 無料

会場 相模原市公民館 1階
主催 相模原市市民・行政協働運営型市民ファンドゆめの芽の助成金事業

結果(1)

- 老いにつれて母親は小さい卵を産んだ
- 大きい母親ほど大きい卵を産んだ



結果(2)

- 大きい卵から孵化した幼虫は、早く成長した
- 大きい卵から孵化した幼虫は、早く成長した

めずらしい昆虫標本展示



モノの丘 Meets 昆虫 自由研究

循環型農業 昆虫 自由研究

子どもたちの自由研究

自由研究のアイデアや結果を共有できる場です。

自由研究のアイデア

自由研究のアイデアや結果を共有できる場です。

日程

令和6年
1月18日(木)~1月22日(月)

見学無料

事前予約不要、
直接会場に
お越し下さい。

※展示時間はアリオ橋本の営業時間に準じます。

会場

アリオ橋本 1階 3COINS+plus前

(相模原市緑区大山町1番22号/JR横浜線・相模線・京王相模原線 橋本駅 徒歩5分)

主催: 昆虫文化を子供たちに伝える会 (三宅:090-3219-2805)
 後援: 相模原市、相模原市教育委員会、相模原市観光協会、城山観光協会
 東京応化科学技術振興財団、山口大学理学部小島渉研究室、モノの丘、
 ここももの会、野生動物との共生の会
 協力: アリオ橋本、エコパークさがみはら

(本事業は、令和5年度相模原市市民・行政協働運営型市民ファンドゆめの芽の助成金事業です。)

Instagram



会の紹介

